

日本文化発信プログラム

現在の日本語教育支援体制

現状：初学者に対して日本語学習を促す支援体制が欠如。

上級の日本語教師

(大学の日本語学科等)

※国際交流基金は、現地の日本語教師・教育機関に対する支援を実施



現地の日本語教育

初級・初学者(草の根レベル)

海外における
現代日本文化(アニメ・ゲーム等)
日本語人気の急増

日本語初学者に対する
日本文化紹介・日本語教育支援

※途上国ではJICA(海外青年協力隊)が担っている。

先進国・ODA卒業国にはこのような支援体制がない。



(上からマンガを使った日本語教室、折り紙教室、剣道演舞)

日本文化発信プログラムの発足

174百万円を平成20年度予算案で計上

<ポイント>

- ①現代日本文化・日本語の総合的発信
- ②ボランティアによる草の根発信強化
- ③関係機関との連携

(国際交流基金との補完関係強化、JICA(青年海外協力隊)の実績・ノウハウの活用等)

I 募集(国内)

II 研修(国内)

(日本語教育法、日本文化など)

III 各国に派遣

ポップカルチャーを発信しつつ日本語を教える。

東欧4カ国に30名弱派遣予定

事業のイメージ

※EU加盟によりODAを卒業した**ポーランド、ルーマニア、ブルガリア、ハンガリー**の東欧4カ国を対象とする。



(左:着物デモンストレーション、右:コスプレ大会の様様)